

ゴールドブレンドコンサート in 瀬戸大橋博'88・岡山

GOLD BLEND Concert 1988

音楽監督・指揮：石丸 寛
ゲスト：名古屋木実(ソプラノ)
浜家輝雄(司会)
オーケストラ：RSKゴールドブレンド・オーケストラ
西 直樹(ピアノ)
中牟礼貞則(ギター)
荒川康男(ベース)
石松 元(ドラムス)

“オーケストラの休日”

〔第1部〕 マーチ・アラカルト

1. ワーグナー：歌劇「タンホイザー」より“大行進曲”
2. エルガー：威風堂々
3. タイケ：旧友
4. スーザ：星条旗よ永遠なれ
5. アルフォード：ボギー大佐(クワイ河マーチ)

〔第2部〕 映画音楽大全集(編曲：青木 望)

1. テーマ音楽集
2. ディズニー映画音楽集
3. アカデミー音楽賞受賞作品集

企画原案：石丸 寛
企画構成：森 千二
制作：RSK山陽放送
制作協力：(株)1002
主催：RSK山陽放送
提供：ネッスル株式会社
後援：岡山県教育委員会
岡山県瀬戸大橋架橋記念博覧会協会
山陽新聞社

1988年7月23日(土) 7:00pm
会場：瀬戸大橋博覧会催事劇場

〔放送日〕 RSK山陽放送：ラジオ 7月25日(月) 7:00pm～8:00pm
テレビ 7月30日(土) 12:00pm～12:54pm



名古屋木実 (なごや・このみ)
桐朋学園大学声楽科卒業。1979年よりミラノに留学し研鑽を積んだ。そのご「魔笛」「コシ・ファン・トゥッテ」「セヴィリアの理髪師」「ヘンゼルとグレーテル」などたてつづけに出演、そのたびに好評を博した。一方、NHK交響楽団をはじめ主要オーケストラとの協演も数多く、テレビ、ラジオへの出演など、持ち前の滑らかな美声と美貌によって、いまもっとも注目を集めている。



浜家輝雄 (はまいえ・てるお)
昭和47年、RSK山陽放送入社、アナウンサーとして「歌謡曲ワイドサンデー」「ワイドおかやま」「浜家輝雄のおはようおかやま」「土曜ジャンボ(以上ラジオ)など、テレビでは「朝のホットライン」「奥さん! 10時です」などを担当、明るく親しみやすい人柄で主婦に絶大な人気がある。JNNアンシスト賞のRCM部門、R番組部門、TV番組部門でそれぞれ全国優秀賞を受賞。



西直樹 (にし・なおき)
幼児よりピアノを始め、早くからジャズバンドで活躍したが尚美高等音楽院でジャズ、クラシックの両方を専攻。いくつかのバンドをへて現在は自分のトリオを基盤に広く活躍。日本を代表する若手ピアニストとして着実に歩んでいる。



中牟礼貞則 (なかむれ・さだのり)
青山学院大学卒業後プロ入り。徳山陽カルテット、西条孝之介とウエストライナーズなどに参加。独自の味のあるプレイで日本を代表するギタリストとなる。現在は自分のトリオで活躍するほかテレビ・ラジオなどで広く活躍。



荒川康男 (あらかわ・やすお)
ジョージ川口、沢田駿吾、トシコマリアーノ等一流のグループに参加。パークレー音楽院に留学。文字通り日本のトップ・ジャズ・ベーシストとして君臨している。テレビ出演やオーケストラとの協演等多忙を極め、作編曲でも活躍。



石松元 (いしまつ・はじめ)
松岡直也バンドでプロ入り。カーメン・マックレーに認められて日米ツアーに参加。数々の一流バンドをへて、現在は前田憲男とウインドブレイカーズを中心にフリーのスタジオプレイヤーとして幅広く活躍している。

● 映画音楽大全集曲目

1. テーマ音楽集

「2001年宇宙の旅」=「ジョーズ」=「スーパーマン」=「ロッキー」=「007/危機一髪」(ロシアより愛をこめて)=「ゴッドファーザー」=「ピンク・パンサー」=「世界残酷物語」=「第三の男」=「スター・ウォーズ」

2. ディズニー映画音楽集

ミッキー・マウス・マーチ「ミッキー・マウス・クラブ」
・星に願いを「ピノキオ」
ハイ・ホー「白雪姫」
・ラ・ラ・ルー「わんわん物語」
デビー・クロケットの唄「デビー・クロケット」
・チム・チム・チェリー「メリー・ポピンズ」
ビビディ・バビディ・ブー「シンデレラ」

3. アカデミー音楽賞受賞作品集

・虹のかなたに「オズの魔法使い」(1939 主題歌賞)
モナリザ「別働隊」(1950 主題歌賞)
慕情「慕情」(1955 主題歌賞・劇映画音楽賞)
八十日間世界一周「八十日間世界一周」(1956 劇映画音楽賞)
・トゥナイト「ウエスト・サイド物語」(1961 ミュージカル映画音楽賞)
いそしぎ「いそしぎ」(1965 主題歌賞)
雨にぬれても「明日に向かって撃て」(1969 主題歌賞・劇映画音楽賞)
・ある愛の詩「ある愛の詩」(1970 作曲賞)
ライムライト「ライムライト」(1972 劇映画音楽賞)
エンターテイナー「スティング」(1973 歌曲・編曲賞)
エヴァーグリーン「スター誕生」(1976 主題歌賞)
E、Tのテーマ「E、T」(1982 オリジナル作曲賞)
心の愛「ウーマン・イン・レッド」(1984 主題歌賞)
セイ・ユー・セイ・ミー「ホワイト・ナイツ」(1985 主題歌賞)
・フラッシュ・ダンス「フラッシュ・ダンス」(1983 主題歌賞)

RSK ゴールドブレンドオーケストラ

コンサートマスター：菊池 東
インスペクター：坂口充倫

第1バイオリン

佐藤真理子
鮑浦良和
有田和恵
菊池 東
越宗宣子
園田哲郎
鳥居ゆかり
岡崎良弘
河村真知子
福崎至佐子
武村寿子
十川真弓

ヴィオラ

友野良一
中野隆重
八木原周平
武本克巳
坂 文雄
坂 昭男
中塚良昭
西川修助

チェロ

西田毅雄
秋山浩美
石川恵子
石渡日出男
井上良子
木曾治子
黒田正典
鈴鹿夕鼓
諏訪裕美
田中光子
光延勢吾

第2バイオリン

木村啓子
今城由紀恵
岡崎法子
折口範昭
真田奈美
増田淑恵
牧浩太郎
家守智子
田中栄一

コントラバス

本屋敷勝信
亀高由子
曾我部仁和
難波由宏
安田友子
吉田弘一
松本武全
瀬戸川道男

フルート

坂口充倫
片山知子
坂井昌子
オーボエ
赤松由紀子
小崎温子

クラリネット

川崎史子
高杉睦子
ファゴット
西倫世
水原真理子
大西文恵

ホルン

文谷 功
小山紀章
佐藤量太郎
三善健吾

トランペット

石原 憲
在間弘和
岡本卓也
光安裕二
国平貴之

トロンボーン

佐藤道郎
中川泰秀
西岡 忠

チューバ

山口雅弘

打楽器

谷本江里
田中美年
成田品子
磯野智子
高橋昌子

オーケストラ協力出演
倉敷管弦楽団/高松交響楽団

ゴールドブレンドコンサートニュース

いよいよ16年目にはいったゴールドブレンドコンサート
今年も全国6都市で開催されますが、その4回目が岡山です。
岡山県での開催は、昨年ひきつづき8回目になります。

オーケストラのご紹介

オーケストラは、倉敷管弦楽団が中心となり、これに香川県の有志や一般公募の応募者が加わって、“ゴールドブレンド”されたオーケストラが編成されました。

中心になった倉敷管弦楽団は、美しい音色、よいアンサンブル、質の高い音楽をモットーとして昭和49年に設立、倉敷という文化都市にふさわしい若さと熱気をもって、この14年間、着実な演奏活動を重ね、いまや岡山県を代表するオーケストラとして、その成果が高く評価されています。定期演奏会だけでなく、オペラ公演に作曲の初演にと広く活躍していらっしゃいますが、そうした活動に対して、昭和57年には岡山文化功労章を、昭和60年には倉敷文化連盟賞を受賞されました。

将来がますます期待されていますが、この倉敷管弦楽団に、市民の皆様も大きな声援を送ってあげてください。

瀬戸大橋開通を祝って

これまで、このゴールドブレンドコンサートは、岡山市では岡山市民会館、倉敷市では倉敷市民会館と音響設備の良い演奏会場で開催されてきましたが、今年は瀬戸大橋博覧会に協賛して、この半野外の催事劇場で出張演奏ということになりました。

演奏曲目も、こうした会場で気楽に聞いていただけるように、勇壮な行進曲集と懐かしい映画音楽集で組み立ててみました。

真夏の宵のひととき、瀬戸内海の潮風に吹かれながら、楽しい音楽でお過ごし下さい。

コンサートを彩るプロのアーティスト

さて、このコンサートを盛り立てて下さるのが、一流のプロ

のアーティストたち。指揮者の石丸寛氏はいまさらいうまでもなく、このゴールドブレンドコンサートを最初からずっと支えて下さっている大黒柱です。名古屋木実さんは、今もっとも期待を集めているソプラノで、オペラはもちろん、今夜のようなポップスでも、その美貌と美声で聴く人を魅了します。

ピアノ、ギター、ベース、ドラムスによってポップスのリズムをきざんで下さる4人の皆さんは古くからこの世界では名人として知られ、テレビでも大活躍していらっしゃいますので、ご存じの方も多いことでしょう。

また、映画音楽やクワイ河マーチを編曲して下さった青木望氏は、昔タンゴバンドなどで活躍されましたが、いまではオーケストレーションの巧みな編曲者として有名で、とくに映画音楽等の分野では右に出るものはありません。

こうした名手の皆さんに彩られて、今夜のコンサートはきっと、華やかに楽しく展開していくことでしょう。RSKラジオの「土曜ジャンボ」でおなじみ、浜家輝雄さんの軽快なお案内にしたがって、どうぞ最後までごゆっくりとおたのしみ下さい。

もう少し一緒にいたいから...

和食の後に、家族そろってコーヒーを囲む。そんな和やかな光景が展開されているゴールドブレンドの新しいコマーシャル、もうご覧になりましたか。ニューヨーク市立大学の霍見芳浩教授が特別出演。穏やかで愛情ゆたかなお父さん像が、とても印象的です。家族の団らんをあたたく見守るお母さんのつぶやきは、“もう少し一緒にいたいから”。心ゆたかなこんなひとときがもっと広がったら……ゴールドブレンドの願いです。

GOLD
BLEND[®]
Concert
1988

ゴールドブレンドコンサート

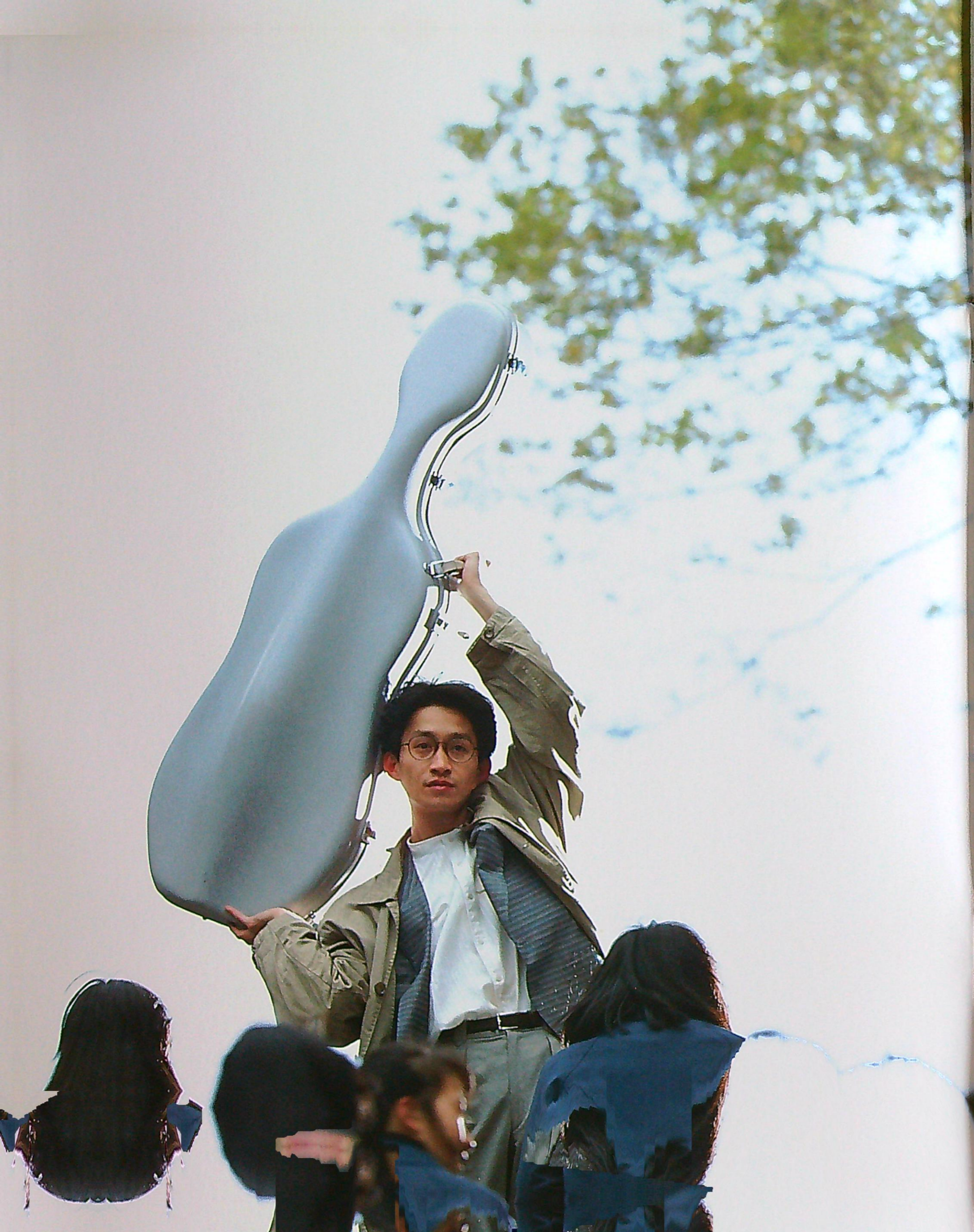
音楽を通して、弾く人と聴く人の感動がひとつに溶けあう、ふれあいのひととき。この街のアマチュア音楽家が、あなたの

ために、この街のために奏でる手づくりの音楽会、それがゴールドブレインドコンサートです。厳しい練習を経て、いまオー

ケストラは弾く喜びに満ちています。あなたも音楽を肌で感じ、聴く喜びや楽しさを実感してください。コンサートは

これからも、若き音楽家たちの情熱、若々しい旋律をいかながら、さらに、熱い音楽を日本中にお届けしてまいります。

熱 い 音。





熱

美しい音楽で日本中をつつみたい
 ——石丸寛とスタッフ
 オーケストラで、ステージで、音楽を弾きたい
 ——アマチュア音楽家
 生のクラシック音楽を楽しみたい
 ——音楽ファン
 地元の音楽文化を向上・発展させたい
 ——教育委員会、放送局、新聞社

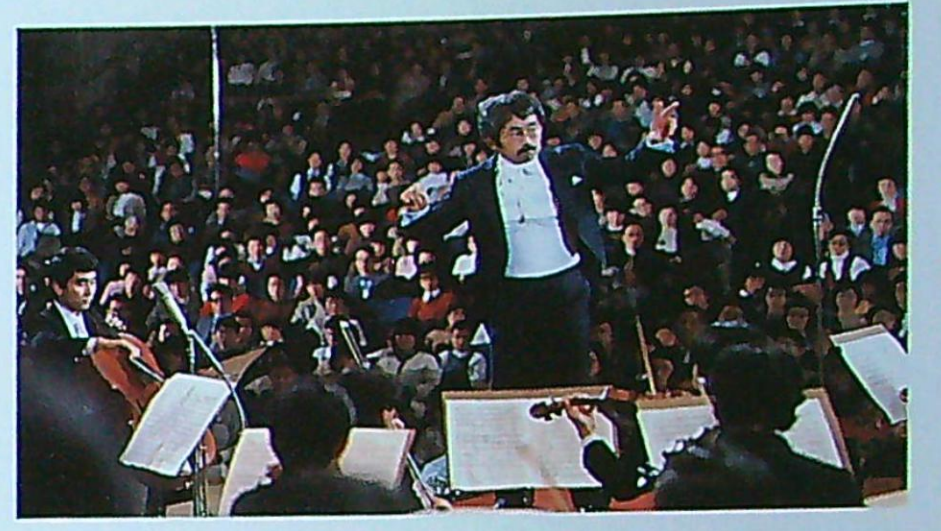
いい

それぞれの夢、それぞれの願いが
 “音楽を愛する心”で
 結ばれて生まれたゴールドブレンドコンサート。
 1973年にスタート以来、
 これまでに全国132都市で開催され、
 出演者・観客を合わせると
 約40万人におよぶ人たちが、
 音楽の感動をわかちあってきました。
 ゴールドブレンドコンサートを機に、
 各地に定着したオーケストラや、
 格段の進歩をとげたオーケストラがあります。
 ステージに感動し、オーケストラに入団した人、
 熱烈なクラシックファンになった人もいます。
 あたたかなエピソードを奏でながら、
 日本中に音楽の輪をひろげ続ける
 ゴールドブレンドコンサート。
 きょうは、あなたの街へ…。

輪。

1988年 ゴールドブレンドコンサート開催スケジュール(予定)

3/6 (日) 盛岡市	3/26 (土) 習志野市	4/30 (土) 高松市
7/23 (土) 倉敷市	9/17 (土) 長崎市	



ゴールドブレンドコンサートの歩み

全国132都市 観客総数 395,070人 出演総数 26,108人 ●観客数 ■出演者数

73 10都市 ●23,772人 ■2,955人 福岡市(4月) ●2,750人 ■275人 札幌市(5月) ●2,158人 ■400人 松山市(7月) ●2,562人 ■330人 広島市(8月) ●1,354人 ■270人 熊本市(9月) ●2,550人 ■289人 新潟市(9月) ●2,450人 ■302人 静岡市(10月) ●3,586人 ■354人 金沢市(11月) ●1,844人 ■215人 長野市(11月) ●2,195人 ■210人 仙台市(11月) ●1,823人 ■310人	74 14都市 ●37,304人 ■3,400人 山形市(4月) ●1,977人 ■444人 長野市(5月) ●3,300人 ■230人 高知市(5月) ●1,760人 ■296人 岡山県(6月) ●2,800人 ■499人 札幌市(6月) ●2,408人 ■233人 仙台市(7月) ●2,670人 ■270人 松山市(7月) ●3,362人 ■327人 長崎市(8月) ●3,015人 ■233人 広島市(9月) ●3,015人 ■261人 金沢市(9月) ●1,998人 ■230人 熊本市(9月) ●3,042人 ■93人 福岡市(10月) ●2,293人 ■91人 新潟市(11月) ●3,213人 ■87人 清水市(12月) ●2,451人 ■106人	75 11都市 ●30,442人 ■2,641人 長野市(5月) ●2,371人 ■243人 松江市(6月) ●2,800人 ■280人 岡山市(7月) ●2,820人 ■130人 仙台市(7月) ●3,365人 ■236人 山形市(7月) ●1,709人 ■516人 福島市(7月) ●1,567人 ■263人 熊本市(8月) ●2,191人 ■87人 長崎市(9月) ●3,560人 ■81人 松山市(9月) ●3,192人 ■358人 新潟市(10月) ●3,038人 ■87人 鹿児島市(12月) ●3,101人 ■360人
76 9都市 ●29,984人 ■2,028人 金沢市(5月) ●2,790人 ■92人 福島市(7月) ●3,909人 ■296人 長野市(7月) ●3,138人 ■223人 長崎市(9月) ●4,150人 ■102人 広島市(9月) ●4,561人 ■235人 松江市(12月) ●2,036人 ■111人 新潟市(12月) ●3,930人 ■280人 山形市(12月) ●2,152人 ■434人 鹿児島市(12月) ●3,318人 ■255人	77 10都市 ●30,681人 ■1,689人 長岡市(5月) ●2,032人 ■169人 松江市(6月) ●2,835人 ■65人 福島市(7月) ●5,200人 ■106人 熊本市(7月) ●2,442人 ■85人 高崎市(7月) ●2,303人 ■281人 長崎市(9月) ●4,800人 ■93人 甲府市(10月) ●2,366人 ■346人 那覇市(12月) ●3,541人 ■205人 防府市(12月) ●2,455人 ■68人 高知市(12月) ●2,907人 ■271人	78 10都市 ●32,171人 ■2,056人 青森市(4月) ●2,234人 ■274人 新潟市(5月) ●3,655人 ■205人 松江市(6月) ●3,254人 ■188人 甲府市(7月) ●3,307人 ■532人 那覇市(8月) ●3,400人 ■72人 長崎市(9月) ●4,553人 ■107人 高松市(9月) ●2,398人 ■83人 倉敷市(11月) ●2,562人 ■352人 札幌市(11月) ●3,402人 ■62人 盛岡市(12月) ●3,406人 ■181人
79 11都市 ●34,052人 ■2,284人 弘前市(4月) ●1,672人 ■322人 松江市(6月) ●3,272人 ■92人 盛岡市(6月) ●3,224人 ■338人 長岡市(7月) ●2,919人 ■161人 姫路市(9月) ●3,179人 ■198人 長崎市(9月) ●3,311人 ■106人 金沢市(10月) ●1,777人 ■251人 甲府市(10月) ●3,888人 ■348人 那覇市(11月) ●3,500人 ■54人 静岡市(11月) ●3,870人 ■139人 高松市(12月) ●3,440人 ■275人	80 9都市 ●31,623人 ■2,050人 熊本市(3月) ●2,791人 ■106人 青森市(4月) ●2,454人 ■349人 長岡市(6月) ●2,665人 ■136人 盛岡市(6月) ●3,556人 ■262人 甲府市(9月) ●3,953人 ■396人 松江市(10月) ●3,846人 ■456人 富崎市(11月) ●3,908人 ■72人 静岡市(11月) ●3,850人 ■104人 神戸市(12月) ●4,400人 ■169人	81 9都市 ●28,214人 ■1,224人 浜浜市(2月) ●2,073人 ■327人 弘前市(5月) ●2,515人 ■93人 長岡市(5月) ●3,706人 ■101人 長岡市(6月) ●2,620人 ■75人 神戸市(8月) ●2,645人 ■107人 倉敷市(9月) ●3,840人 ■259人 静岡市(11月) ●3,294人 ■91人 宮崎市(11月) ●3,306人 ■84人 高松市(12月) ●4,215人 ■87人
82 7都市 ●21,127人 ■1,156人 松江市(4月) ●2,562人 ■104人 天童市(6月) ●2,001人 ■77人 新潟市(7月) ●3,676人 ■79人 長崎市(9月) ●3,800人 ■272人 宮崎市(11月) ●3,425人 ■193人 福井市(12月) ●2,267人 ■91人 静岡市(12月) ●3,396人 ■340人	83 8都市 ●23,919人 ■1,287人 倉敷市(4月) ●2,710人 ■83人 山形市(6月) ●2,229人 ■88人 福山市(8月) ●2,727人 ■406人 徳島市(9月) ●2,227人 ■102人 甲府市(10月) ●3,687人 ■92人 宮崎市(11月) ●3,695人 ■85人 福井市(11月) ●2,489人 ■78人 静岡市(12月) ●3,155人 ■353人	84 8都市 ●21,705人 ■856人 熊本市(3月) ●2,864人 ■105人 盛岡市(5月) ●3,103人 ■134人 本州市(7月) ●2,062人 ■115人 富山市(9月) ●1,594人 ■100人 富山市(9月) ●3,022人 ■106人 甲府市(10月) ●3,523人 ■93人 習志野市(10月) ●2,363人 ■117人 宮崎市(12月) ●3,174人 ■86人
85 5都市 ●14,630人 ■996人 福井市(5月) ●2,015人 ■210人 大分市(6月) ●3,924人 ■143人 岡山市(10月) ●3,268人 ■91人 長野市(12月) ●2,221人 ■466人 郡山市(12月) ●2,262人 ■86人	86 5都市 ●14,160人 ■556人 徳島市(4月) ●2,235人 ■112人 大分市(5月) ●3,702人 ■117人 福島市(6月) ●2,654人 ■97人 長野市(9月) ●2,629人 ■138人 富山市(10月) ●2,940人 ■92人	87 6都市 ●21,286人 ■930人 高松市(3月) ●3,122人 ■84人 新潟市(4月) ●4,225人 ■462人 大分市(6月) ●3,680人 ■115人 倉敷市(9月) ●3,777人 ■85人 甲府市(10月) ●3,384人 ■86人 静岡市(12月) ●3,098人 ■98人

熱

しい

汗。

ゴールドブレンドコンサートに出演するオーケストラ、コーラスはこの街のアマチュア音楽家のみなさんです。石丸寛音楽監督・指揮のもと、さまざまな職業にある人たちが、きょう、このステージのために数ヶ月前から集まり、厳しい練習を重ねてきました。楽器の演奏技術も「ヴァイオリンを手にして、まだ3ヵ月。楽譜も



やっと読めるくらい」という中学生がいれば、「学生時代から弾いてき



て、現在も地元のオーケストラで活動している」という公務員や、「むかし弾いていたんですが、私も参加できるとはなぞねてきた50代の女性など、レベルも年齢もまちま

ちの音楽愛好家が集まってはじまりました。上手な人は初心者をはげま

し、初心者も一所懸命それに応えたりと練習を重ねるたびにメンバーの結びつきは深まり、オーケストラとしての呼吸も合ってきます。また、石丸

寛やトレーナーの厳しくても、あたたかい指導によって、バラバラだった音が、徐々にまとまりをもった旋律を生みだし、やがてひとつの音楽としてできあがりはじめます。

最後のリハーサルともなれば、石丸寛もオーケストラも汗だくで総仕上げに。会場の空気は、ピンと張りつめたようで、石丸寛の細かい注意を全員がしっかりと聞き真剣な目を向け、本番への意気込みと緊張がうかがわれます。

そしていよいよこのステージで、熱い汗の成果が披露されるのです。ひとりひとりの熱い音がうつくしく重なり、すばらしい音楽が奏でられることでしょう。

あなたの街のアーティストたちに、どうぞあたたかい拍手をお送りください。

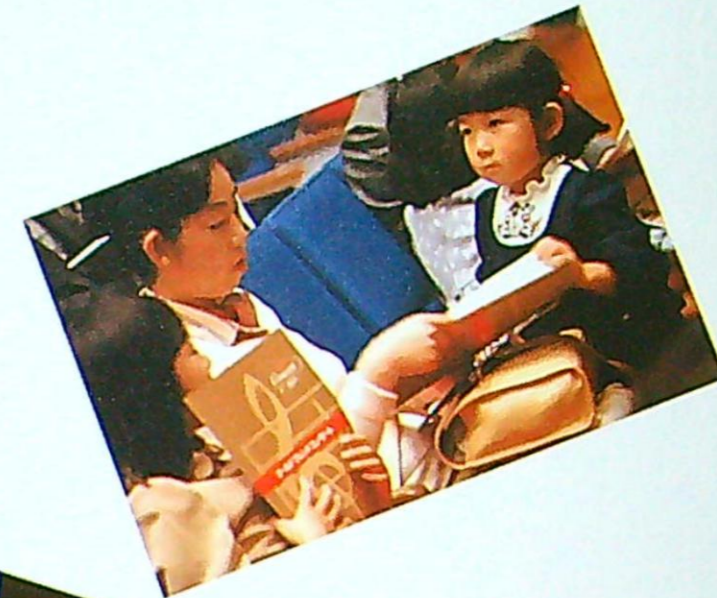




熱

い

時。



●弾く喜びを実感しました。こんなことは初めてだった。なんと「新世界より」の各楽章ですごい拍手があったのです。ふつう交響曲は全部の楽章が終わるまで拍手してはいけませんが、あまりクラシックを聴いたことのない人が多かったのでしょうか。でも、この拍手は、私たち演奏家にとっては本当にうれしいこと。きっと私たちの音楽に心から満足して送ってくれたものだと思うからです。石丸先生もいやな顔ひとつせず小さな会釈さえされました。この時、私は音楽の本当の喜びを知ったような気がしました。——(ヴァイオリン奏者、22歳)

●石丸先生に学んだこと。「悲愴」交響曲は、一楽章の冒頭からヴィオラが活躍して、やりがいがあった代わりに全楽章ほとんど手をあげず、緊張の連続でした。曲が終わり、たくさんの拍手と、ふだん厳しい石丸先生の顔からこぼれる微笑に、音楽をやってきてよかったと実感しました。その石丸先生から、練習中に印象深いことを教わりました。それは曲の「間」のこと。曲には必ず休み(間)というものがあるが、それは単に休止符分だけ弾くのをやめているのではなく、その間も常に音楽をしていなければならない……。そういえば、合奏していてふと白けたムードになる時があるが、それは楽器を弾きながらも「音楽すること」を忘れてしまったせいではないかと思ひあたることがありました。このコンサートで学んだことを、今後の演奏にひとつひとつ活かしていきたいと思っています。——(ヴァイオリン奏者、37歳)



●これがアマチュア? 石丸さんの解説を頭に置きながら演奏を聴くと、曲も大変わかりやすく感じ、楽しめました。ヴァイオリン等の弦楽器の音量もさることながら、美しい音色に感嘆。フィナーレのタクトがおろされた瞬間、ため息がもれ、しばらくはぼう然と余韻にひたっていました。本当に、アマチュアでもこんなに素晴らしい演奏ができるのかと、感心しました。——(会社員、40歳)

●生オーケストラの迫力を堪能。いつもはレコードで聴いているチャイコフスキーも、やはり生のオーケストラの迫力にはかないません。存分に楽しめました。お話しによれば、今日が百数十回目の演奏で、やっと身についた音楽が弾けるようになったとか。人に感動を与えるためには、人知れぬ努力の積み重ねが必要だということも、音楽を通じて、一緒に行った子供にも教えることができました。——(主婦、35歳)



熱

い

余

韻。

音楽の楽しみ方 横溝亮一

音楽をどう楽しむか、それは人それぞれであろう。ある人はコンサートでベートーヴェンやモーツァルトを聴いて感動し、ある人はカラオケで演歌を歌って満足する。また若い人たちの中にはテープやFMでロックやニュー・ミュージックを楽しむ人も多に違いない。そうした楽しみ方について、まわりからあれこれ言う必要もないのだが、ただ、クラシック音楽については、「自分は音痴だからクラシックは苦手です」と、最初から逃げ腰になる人がいるのは残念だと思う。それは、必ずしも本人のせいばかりではなく、日本ではクラシックを芸術視するあまり、あだやおろそかな態度で聴いてはならない、というような雰囲気があるので、つい敬遠する気になってしまう面もあるのだ。また、いきなり、バルトークとかストラヴィンスキーでは、誰だって、クラシックはむずかしい、ということになってしまう。しかし、例えば、ヨハン・シュトラウスの「美しき青きドナウ」とかモーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」などを聴いて、「これはわけがわからな

い」と思う人は少ないだろう。要するに、クラシックも曲の選び方次第で、どんな素人でも、クラシックの魅力を十分に味わうことが出来るはずなのである。私の友人で、およそクラシック音楽など縁がない生活をしている人がいた。それがあつた時、子供にせがまれたからと、ベートーヴェンの「第9」コンサートのチケットを買って欲しいと頼んで来た。もう年末近い時節でなかなか入手にくかったのを、なんとか確保してさしあげた。ところが、そのコンサートが終わって数日後、その友人から電話があり、ひどく興奮した声で「いや、良かった、すばらかった。こんなにクラシックが感動的とは思わなかったよ。ありがとう」と、たいへん感激ぶりなのである。この人はその後、すっかり、クラシック・ファンになり、レコードを買って集めたり、一人でコンサートに出かけたりして、いっばしの音楽通になってしまった。これは、やっぱり、ベートーヴェンの「第9」の持つ力によるところが大きかったような気がする。もし、この人が最初に難しい現代音楽などを聞かされて

いたら、こうも簡単にクラシック・ファンになったかどうかわからないと思う。コンサートを聴きに行くより、家でレコードやFMを聴くほうが簡便であるのは違いない。けれども、多少面倒でも、ホールに出かけて、本当のオーケストラやピアニストを目の前にして音楽を聴くのは、レコードなどとは全く違う「本物」の雰囲気がある。感動がより深くなる。地方に住んでいると、なかなかそうした機会がないのが残念だが、「ゴールドブレンド・コンサート」などはナマの音楽に触れる良いチャンスということが出来る。ステージにずらりとならんだオーケストラをながめる時、これから、どんな音、響きが湧き上がるのだろうか、胸がドキドキするものだ。こうした興奮を一度経験すると、また音楽が聴きたくなる。レコードもFMもいけれども、音楽はなんといってもナマに限る、というのが私の持論である。心豊かにオーケストラを聴く。人生でこれほどリッチな楽しみはほかにあるだろうか。さあ、みんなて出かけよう。コンサートへ。





ゴールドブレンドコンサートは、
みなさまのあたたかいご声援に支えられ、今年で16年目。
これからも、音楽文化の中央偏在を排し、日本中にいい音楽をひろげるために、努力してまいります。
今後とも熱いご支援のほど、よろしくお願いいたします。

0065